

令和8年度 第1回 国有林材供給調整検討委員会

< 次 第 >

日時：令和8年6月19日（金）13：30 - 16：00

場所：中部森林管理局 大会議室

- 1 開会
- 2 中部森林管理局長あいさつ
- 3 検討委員紹介
- 4 委員長選出
- 5 議事
 - (1) 国有林材供給調整検討委員会 趣旨等
 - (2) 国有林材供給調整対策について
 - (3) 意見交換
 - (4) その他
- 6 閉会

令和8年度 第1回中部森林管理局国有林材供給調整検討委員会出席者名簿

委員

区分	役職等	氏名	備考
学識経験者	信州大学名誉教授	植木 達人	
関係行政機関の職員	富山県農林水産部森林政策課 主幹	北島 貴文	
関係行政機関の職員	長野県林務部信州の木活用課 県産材利用推進室長	今尾 春彦	欠席
関係行政機関の職員	岐阜県林政部県産材流通課長	河本 俊哉	
関係行政機関の職員	愛知県農林基盤局林務部林務課 あいちの木活用推進室長	佐久間 学	欠席
製材（富山）	ウッドリンク株式会社 代表取締役副会長	原野 哲雄	
素材生産（長野）	平澤林産有限公司 代表取締役	平澤 照雄	（Web出席）
原木流通（長野）	長野県森林組合連合会 業務課長	田口 連蔵	
製材（長野）	株式会社勝野木材 代表取締役社長	勝野 智明	
原木流通（岐阜）	岐阜県森林組合連合会 木材流通事業本部長	赤池 保	
原木流通（愛知）	株式会社東海木材相互市場 代表取締役会長	鈴木 和雄	

中部森林管理局

役職等	氏名	備考
中部森林管理局長	佐伯 知広	
森林整備部長	藤平 康則	
資源活用課長	三井 正	
企画官（間伐推進）	原田 直樹	
企画官（長期安定供給）	古畑 輝雄	欠席
上席技術指導官（木材供給）	小枝 幸博	
素材供給係長	黒澤 友大	
供給計画係	小池 諒香	

令和8年度 第1回 中部森林管理局 国有林材供給調整検討委員会

(概要)

1. 開催日時

令和8年6月19日（金）13時30分～16時00分

2. 開催場所

中部森林管理局 大会議室

3. 検討内容

- (1) 国有林材供給調整対策について
- (2) その他

4. 検討結果

令和7年の新設住宅着工戸数は74万667戸となり、直近20年では、リーマンショック後の平成21年（78万8,410戸）を下回る最低水準となった。新設住宅着工は停滞しており、将来的にも着工戸数の減少が見込まれている。

現在、合板や集成材の製造に使用される接着剤や、製品出荷時の包装資材など、木材産業の現場に不可欠な資材については、中東情勢の影響により安定的な調達への懸念が生じている。

このような中、林野庁においては、関係省庁と連携し、石油関連製品事業者に対して安定供給確保への協力を要請するとともに、燃料油や石油製品等の供給に関する相談窓口を設置し、供給上の支障の解消に向けた対応を進めてきている。

中部局管内の原木価格に目を向けると、地域や樹種により差異が見られるものの、全体としては横ばいで推移している。原木市場では、入荷量および消費量が増加している市場が多く、在庫量は減少している状況にある。

こうした状況を踏まえ、現時点で国有林材の供給調整を行う段階にはなく、本年度計画している製品生産事業を着実に実行するとともに、引き続き管内の木材の需要動向や民有林材の供給状況等を注視していく必要がある。

5. 主な委員意見等

各委員から共通して、国有林材の供給調整の必要性は無いといった見解が示された。主な意見等は次のとおり。

- 現在のように大手企業が市場を占有していく状況は、地域経済への影響が懸念される。中小事業者にとっては大変厳しい環境になっていると感じる。
住宅需要の低下やコスト上昇の中で、今後どのように対応していくかが課題。
- 中東情勢の影響によりチェーンソーオイル等の資材供給に不安が出ているが、現状として、前年同月の使用量を確保し、伐採や下草刈りはできている状況。
流通について、ヒノキは入梅時期に入ったこともあり引き合いが弱い一方、スギ、カラマツは引き合いが強く、価格は維持されている。
特に、スギは梱包材やラミナ材の需要が高く、外材から国産材にシフトしていると感じられる。
合板工場によっては、接着剤や重油等の供給不安や不足により集荷を制限しており、販路先で右往左往している。
山側としては供給できても、受け入れ側の制約により流通が滞る場面があると認識。
- 岐阜県も概ね同様の状況で、流通では、ヒノキの3m14~18 cm材が非常に弱い状況。中東情勢の関係では、チェーンソーオイルの供給が不安定で、手持ちの在庫を恐る恐る使っている状況。ただし、ただちに伐採が停止するほどではない。
- 中東情勢の影響について、オイルの供給は、先行きが不透明。
スギ、ヒノキとも、3 m、6 mの柱材が売れないため、4 mに切替を行った。
中東問題が解決すれば回復すると思うが、住宅関連の状況はまだ良くないため、木材の供給に急激な変化が起こるとかえって暴落してしまうのではないかと懸念している。
ストックヤードを有効活用し、需要に対する流れをコントロールすることで、生産量をあまり変化させない対応が必要である。
- 木曾地域では、ヒノキの3m材が不足している。一方で、4 m材は余っており、価格が下がっている。九州や関東の一部でも、3 m材が不足しており、安定供給していただきたい。また、素材生産業者の倒産などにより人材が減少している。山側からの供給体制に不安があるため、当社では増員や人材育成に取り組んでいる。
中東情勢について、チェーンソーオイル等の不足は、山側では在庫で間に合っているが、木材乾燥用の重油の在庫量が危機的状況となっており、価格は上昇し供給

は不安定のため、経営負担が増えている。

住宅需要は二極化しており、大手は好調だが、中小工務店は厳しい状況にある。

- 中東情勢の影響として、ボイラーに使う重油が大幅に値上がりし、供給も不安定だった。5月以降は気温が上がり、バイオマスで対応できるようになったが、今後の冬にどうなるか懸念がある。

接着剤は、フィンガージョイントの部分で使用しており、合板工場のように大量には使用しないが、それでも供給が不安定。

建築関係では、断熱材が非常に逼迫しており、すべての分野において供給がタイトになっている。入荷がぎりぎりの状態で、現場では納期延長の交渉や、一部施工後で対応するなど苦労している状況にある。

住宅全体の需要は落ち込んでいるが、大手ハウスメーカーは強い状況にある。大手の主戦場は海外であり、海外での利益を背景に、国内市場は縮小する中でも積極的にシェアを取りに来ており、結果、国内では競争が激化している。

木材価格も、需要は縮小しているにも関わらず、価格が上がるというスタグフレーションの状況になっており、結果として、強い企業が市場を取り込み、価格を引き上げる流れが起きている。

強い企業が、製品価格を上げることで、丸太価格を上げることが可能になる。

スギは、輸入材の代替に使用するため需要があるが、ヒノキは目立った動きがなく需要が限定されている。

- 木材価格は一時上昇したが、その後下がり、十分には戻っていない。

輸入材の代替としてスギが使われる傾向があり、集成材のスギが売れるなど用途の変化が進んでいる。土台のない住宅もできてきており、建築工法の変化により木材の使い方が変わってきている。そのため、土台用のヒノキが売れていない。

供給をある程度絞り込みながら、価格を維持・上昇させていかないと、業界全体が厳しくなることを考えており、大手が儲かり、中小企業が倒産する構造が出来上がる。これは深刻な問題である。

- 富山県も同様の状況で、特に山側ではチェーンソーオイルが入ってこないため在庫で対応している状況にある。また、アドブルーや潤滑油の関係も、入手しづらい状況で、機械工程の中で1つ止まると全体に影響が出るため心配の声が上がっている。資材関係の中で、木材生産の生産費がかかり増しになってきており、うまく価格転嫁できればいいが、できない場合はさらに厳しくなっていくことを懸念している。

- 山側では、チェーンソーオイルの購入量が制限されており、入荷量も価格もわからない状況になっている。

木材流通について、接着剤の入荷が不透明のため、B材は工場で納材量を制限している。

住宅建築では、ユニットバスやルーフィング材や断熱材などが入手困難になっている。住宅価格が、資材や人件費の高騰により上昇していく中で、どこかでコストを圧縮したいという動きがあり、その圧縮対象が木材となっており、製材業者は困っている状況にある。

以 上